

3, 中期学校経営計画

横浜市 菅田中学校

平成30年度版

中期学校経営方針

(平成28～30年度)

学校概要

創立	40周年	学校長	小田 智子	副校長	寺岡 徹	学期	3	学期制	児童・生徒数	489人
学級数	一般級: 13	個別支援級:	3	主な関係校: 菅田小学校、羽沢小学校、池上小学校						

学校教育目標

すこやかな心と体を願って・・・

- (1)互いを認め合い、自らの生き方を切り拓く力を育てます。
- (2)社会のきまりを大切に、責任をもって行動する姿勢を育てます。
- (3)進んで課題を見つけ、よりよく解決する力を育てます。

学校の特徴

- 周囲を農業専用地域に囲まれ、横浜市中心部近郊でありながらも豊かな自然環境に恵まれている。
- ブロック小学校との連携が組織的・計画的・継続的に進められている。
- 学習習慣や生活習慣に課題のある生徒が多い。
- 思考力・判断力・表現力を高めるための指導の工夫が一層求められる。

学校経営中期取組目標

- 生徒一人ひとりが生き生きとした学校生活を過ごすよう、教職員が組織的・重層的な指導を進めます。
- ・教師が常に授業改善に努め、他と協働・協力し、正しく考え、判断し、行動する力を伸ばす授業を実践します。
- ・生徒が社会で生活するために必要な礼儀や正しい言葉づかいを身に付けさせます。
- ・社会の一員として、人との触れ合いを大切に、地域や社会と積極的に関わろうとする生徒の育成を図ります。

小中一貫教育の取組

菅田中 ブロック : 菅田中学校・菅田小学校・羽沢小学校・池上小学校

9年間で育てる子ども像	豊かなかかわり合いや学び合いを通して、自他の良さを認め合える子。自分の課題に粘り強く取り組む子。
自校の具体的取組	○授業力向上と児童・生徒指導の充実を目指してブロック合同研修会や教科部会、授業公開などの教職員交流、児童・生徒間交流など、一層の情報の共有化と連携を図り、児童・生徒に寄り添った指導の実現。 ○日常的な児童・生徒理解を基盤として児童・生徒指導の充実を図り、中一ギャップ解消や不登校の早期発見・早期対応の充実。 ○学習状況調査結果をもとに学習のつまずきを分析し学習方法の改善。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	身に付けさせる力を明確にした授業改善を図り、自他と協働して課題解決を図る力を育てる授業改善を進める。	①小中の系統性を重視した学習指導の工夫。 ②身に付けたい力を授業者と生徒が共有する授業を展開する。 ③言語活動を多く取り入れ、他と協働しながら課題を解決する学習を進める。 ④家庭学習の機会を増やし、進んで学習する習慣を身に付けさせる。
豊かな心	道徳教育の充実を図り、ルールを守る規範意識や礼儀を大切にする態度、自分の行動に責任をもつ姿勢を育てる。	①各担任は年間1回以上道徳指導案を作成し授業を行う。 ②朝読書の時間を年間20日程度設定し、豊かな情操の育成を図る。 ③毎月一週間「あいさつ運動」を実施する。
健やかな体	自己の心や体の健康に関心をもち、自らの健康を管理し、スポーツに親しみ日常の体力向上の取り組みを進める。	①新体力テストの結果をもとに自分の課題を見つけ、自らの体力や健康増進に生かす。 ②体育の授業前にランニングと筋力トレーニングを行い体力向上を図る。 ③家庭科における食育など保健体育以外の教科との関連を図り、健康について関心を高める。
学校運営協議会	学校・地域・保護者が一体となり、小中一貫ブロックの児童生徒の育成に取り組み、地域とともにある学校づくりを進める。	①ブロック内各校で授業参観を含む協議会を開催する。 ②学校運営協議会の記録を公開し、地域・保護者にブロック各校や地域の課題を周知する。
キャリア教育	学ぶこと・働くことの意義や役割を理解し、情報を活用して、自己の進路選択や生き方を考えるようにする。	①指導案や行事等の要項の「ねらい」にキャリア教育の視点からの内容を書き加える。 ②職業体験や全校対象で経済同友会の協力を得て職業講話を年2回以上行う。 ③菅田中ブロック全校で自己有用感を高める授業実践を行う。
児童生徒指導	基本的な生活習慣の充実と「いじめと暴力」のないだれもが安心できる学校生活を実現する。	①菅田中ブロックで策定したスタンダードを実践する。 ②関係機関との連携に努め、保護者・家庭と協働した指導を図る。 ③人権尊重を基盤としたいじめ・暴力を否定する学校風土の醸成のため、生徒会活動を推進する。
特別支援教育	校内委員会の充実を図り一人ひとりに合った支援を組織的にを行い、個に応じた指導を実践する。	①スクールカウンセラーを交えた情報交換会を月に1回以上行う。 ②教室環境や指導方法などの職員研修を年1回以上行う。
いじめへの対応	生徒のつらい思いや悩みを早期に発見する仕組みや環境づくりを推進する。	①二者または三者面談を定期的実施する。 ②生徒へのアンケートを定期的実施する。 ③学習相談などあらゆる機会を利用して、生徒の状況把握に努める。
人材育成・組織運営	、相互理解を基盤とした職員のチーム力を高める。校内OJTが円滑実施されるよう方法や内容を工夫して実践する。	①校内OJTの組織を確立し、年2回以上の自主研修を行い、教員の力量の向上を図る。 ②校内研修を時機に応じた課題とするなど内容を充実させる。 ③マネジメント研修受講者がリーダーとなりメンター研修の企画・運営を行い、経験の浅い教員の育成と中堅教員の力量向上を図る(OJT推進協力校)

4, 全体計画構造図

